

## 高速シートシャッターがエコマークの対象製品に！

高速シートシャッター委員会では、2007年より高速シートシャッターのエコマーク取得に向け活動を行ってきました。その努力が実り、本年7月、財団法人日本環境協会エコマーク事務局は、高速シートシャッターを空調等の省エネに寄与する製品として新たにエコマークの対象とすることを決定し、以下の通り認定基準が制定されました。

今後は、各メーカーがエコマークに適した製品を同協会へ申請し、認定された製品についてはエコマークの表示が可能となります。

商品類型番号：	123
商品類型名：	建築製品（内装工事関係用資材） Version2.8
分 類：	D-5. 高速シートシャッター

### 《用語の定義／高速シートシャッター》

主に工場・倉庫などの車・フォークリフト・搬送者・人などが出入りする建築物内外の開口部に設置される産業用シャッターで、カーテン部分がシート主体に構成され、高速高頻度で上下に開放・閉鎖するシャッター。防寒、防塵および防虫の機能を有する。



▲エコマーク  
▼高速シートシャッター

### ■認定基準（抜粋）

- (1) 製品は、高速かつ高頻度な開閉が可能な構造により、温度差や風などによる開口部からの空気の流れを最小限に抑えられること。製品の開閉速度は0.5m/s以上、開閉頻度の仕様は60回/h以上であること。
- (2) 製品の閉鎖時の開口部からの熱損失が少ないこと。製品の気密性能は、JIS A4702（ドアセット）に定める気密性等級のA-1等級に適合すること。
- (3) 製品の主要構造部品のプラスチック部分（電装部品を除く）は、重金属など有害物質の溶出について、土壤汚染対策法施行規則のカドミウム、鉛、六価クロム、ヒ素、水銀、セレンに関する基準に適合すること。
- (4) 製品の保守点検を請け負う体制を整えていること。また、シートなどの定期交換部品は、回収した後可能な限りマテリアルリサイクル・再資源化を行い、再資源化できない部分は適正な方法で処理・処分すること。
- (5) 製品は、施工、使用、維持・管理、解体、廃棄、リサイクルに関するマニュアルを有し、施工者および建築物の所有者が閲覧できること。
- (6) 申込商品の製造にあたって、最終製造工程を行う工場が立地している地域の大气汚染、水質汚濁、騒音、悪臭、有害物質の排出などについて、関連する環境法規および公害防止協定などを順守していること。
- (7) 品質は、該当するJIS規格および高速シートシャッター技術標準（日本シャッター・ドア協会策定）に適合していること。

## 新会員紹介

新たに1社の入会があり、9月30日時点での会員数が184社となりました。

### 株式会社 日新鋼機製作所（第二種会員）

代表取締役 太田 孝男  
本 社 北海道石狩市  
設 立 昭和54年1月29日  
事 業 内 容 スチールドア、スチールサッシ、防火ドアの製造、加工

（入会：平成22年9月常任理事会）

## 平成 22 年度協会表彰

平成 22 年度は、優秀施工者国土交通大臣顕彰者として 3 名、協会委員会委員功労表彰として 3 名を、協会として表彰しました。優秀施工者国土交通大臣顕彰者は、5 月 27 日、東京・メルパルクホールにおける式典で顕彰され、建設マスターとして公表されました。

### ■優秀施工者国土交通大臣顕彰者

神鷹 英男 文化シャッター専属工事  
 奥田 満 トステム鈴木シャッター専属工事  
 奈良 純一 三和シャッター工業専属工事

### ■優秀施工者国土交通大臣顕彰者

井手 新 文化シャッター(株)  
 高速シートシャッター委員会  
 福西 耕二 トステム鈴木シャッター(株)  
 シャッター技術委員会  
 築山 清一 東洋シャッター(株)  
 ドア技術委員会、OHD 技術委員会

(敬称略・順不同)

### 《優秀施工者国土交通大臣顕彰者》



神鷹 英男 氏



奥田 満 氏



奈良 純一 氏

### 《協会委員会委員功労表彰》



井手 新 氏



福西 耕二 氏



築山 清一 氏

## 高速シートシャッターのエコマーク取得に関する報告

高速シートシャッター委員会委員長

小松 昭夫

(小松電機産業株式会社 代表取締役)



2007 年から高速シートシャッターのエコマーク取得に取り組んでまいりました。紆余曲折はありましたが、ようやく 5 月 19 日でパブリックコメント募集も終わり、申請に向けて具体的な協議を進めておりますので、報告させていただきます。

2007 年 7 月、シートシャッターの技術標準および安全ガイドラインを各社のご協力を得て完成いたしました。その頃、先進国では京都議定書にある CO<sub>2</sub> の 5%削減をどのようにして達成すべきが盛んに議論されており、一般的な鋼製シャッターと比較して約 10 倍～20 倍もの高速で開閉できるシートシャッターを広く普及させることで屋内からのエネルギーの流出を低減し、空調等の省エネに寄与できると考え、エコマーク認定取得を目指すこととなりました。

エコマーク事務局下平(しもだいら)様からの熱心なご指導も頂いて、2008 年 10 月に申請書を日本環境協

会に提出致しました。審議頂いた結果、2009 年 5 月、本基準案が「建築製品」認定基準の中に高速シートシャッターという新たな分類をつくることで追加頂けるとの通知を頂きました。同年 7 月には、新規認定基準案と解説内容について詳細な打合せをエコマーク事務局と行い、11 月のエコマーク基準制定委員会での承認を待っておりましたが、委員会で指摘事項があり承認持ち越しとなりました。12 月に指摘事項に対する回答を委員会でまとめ、ご説明させて頂いた結果、今年の 3 月 10 日にエコマーク基準制定委員会より承認の通知を頂きました。その後、4 月 20 日より 5 月 19 日まで日本環境協会ホームページにパブリックコメント募集として公表された結果、特に外部からの意見は無かったと報告を受けております。

今後は、エコマーク事務局と詳細のつめを行います。シートシャッターの最大の効果は高速で稼働するシートによって空気を遮断して CO<sub>2</sub> 削減に大きく寄与することです。懸案事項としては、リサイクル時におけるシートシャッター構成部材に含まれる特定有害物質の溶出について、各社の資料を取りまとめて当協会から公的検査機関に検査依頼をすることが残っております。

※本稿は、5 月 28 日、協会通常部会懇話会において、小松委員長より報告された内容を一部制変させて頂き掲載したものです。